

# Z世代以降に「雑誌文化」の継承を

## 相次ぐ「看板雑誌」休刊に危機感

寄稿 江戸川大学メディアアコモニケーション学部教授 本多 悟



きた。昨年4月に着任した江戸川大学で「出版論」の授業を担当していること

情報収集手段がSNSにシフト

35年間勤務した光文社を退社し、はや1年が過ぎた。昨年4月に着任した江戸川大学で「出版論」の授業を担当していること

### 出版社にあった内的要因

読者ファーストが置き去りに

だが、出版社側の読者に向き合う姿勢にも問題があったのではないだろうか。

## 広告収入に過度な依存 人材固定化で内向き意識に



雑誌づくりに挑むゼミ生たち

決して「読者ファースト」とはいえない時代が長く続いたことが、「雑誌離れ」につながったと考える。

決して「読者ファースト」とはいえない時代が長く続いたことが、「雑誌離れ」につながったと考える。

決して「読者ファースト」とはいえない時代が長く続いたことが、「雑誌離れ」につながったと考える。

決して「読者ファースト」とはいえない時代が長く続いたことが、「雑誌離れ」につながったと考える。

## 社会的テーマに関心 気軽に読める雑誌は皆無

Z世代



「地と人」の表紙

現在の、大学生と日々向き合う生活をしていて「雑誌離れ」をリアルに感じる機会は多い。

現在の、大学生と日々向き合う生活をしていて「雑誌離れ」をリアルに感じる機会は多い。

現在の、大学生と日々向き合う生活をしていて「雑誌離れ」をリアルに感じる機会は多い。

## 次世代に「雑誌」を繋げる

また、ゼミ生との雑誌づくりを通じて感じたのは、教育的な効果だ。

また、取材のポイントを取るためには、ビジネスメールの打ち方を学ばなければならない。

また、取材のポイントを取るためには、ビジネスメールの打ち方を学ばなければならない。

また、取材のポイントを取るためには、ビジネスメールの打ち方を学ばなければならない。

